

テーマの設定理由

幼児が遊びの中で疑問に思ったことや分からないことがあった際、すぐに答えを教師に求める姿が見られることや、教師自身が園内の自然環境を理解しきれておらず、身近な自然を遊びに取り入れることが十分にできていないことが課題であると感じたため。

活動スケジュール

- ・月に一度 園内研究会
(6月20日、11月20日、1月16日は研究保育実施、講師による指導・助言)
- ・プロ・ナチュラリストによるフィールドワーク
幼児向け：9月8日、11月21日、1月27日
教員向け：12月17日、1月20日、2月10日



- ・集めた砂を入れるカップや、並べて比較できるような細長い机を用意した。
- ・採取した場所を記入し、カップに貼るためのラベルを用意した。
- ・それぞれの砂を詳しく見てみるができるよう、マイクروسコープを用意した。

活動事例

幼稚園にある砂を集めよう～すなすな研究所～



マイクروسコープを使って砂を観察し、粒の大きさの違いや色の違いなどに気付き、気付いたことを友達に伝えていた。また、研究結果として分かったことを紙にまとめ、気付きを書いたり、それを掲示したり学級の人みんなに知らせたりする姿が見られた。共有することで、その遊びに参加していなかった幼児も砂に興味をもち、次の遊びの際に砂を集める幼児がいた。

振り返りを踏まえた気付き

教師が意図的に始めた遊びではなく、幼児が始めた遊びから探究につながるように援助した遊びとなった。そのため、幼児自身が知りたい、面白い、と思う気持ちが自然ともちやすかった。普段何気なく集めていた砂の感触、大きさ、軽さなどの細かい違いに気付くきっかけとなった。